

平成 29 年度 横浜清陵高等学校 不祥事ゼロプログラム 検証結果

	課 題	目 標	行 動 計 画	検証結果
(1)	公務外非行の防止（法令遵守意識の向上）	不祥事を根絶し、県民・保護者の信頼の確保に努める。	i) 職員啓発資料等をもとに、管理職から不祥事防止にかかわる講話または情報提供を行う。 ii) 全体研修会で公務員としての自覚とモラルの向上、法令遵守等について徹底を図る。	○
(2)	セクハラ・わいせつ行為	セクハラ、スクールセクハラおよびわいせつ行為を未然に防止する。	i) 教育実習期間前にセクハラ防止研修を実施するとともに、教育実習生オリエンテーションで講話を行う。 ii) 職員啓発資料等をもとに、全体研修会を実施する。	○
(3)	体罰、不適切な指導	体罰・不適切指導等の未然防止・一掃を目指す。	i) 職員の実態調査を通じて、全体研修会を実施する。 ii) 職員啓発資料等をもとに、全体研修会を実施する。	○
(4)	会計事務等の適正執行	適正な私費の執行に努め、経理処理に係る不祥事を未然に防止する。	i) 私費会計担当者に対する各帳票の様式および手続きについて周知・徹底を図る。 ii) 私費会計執行状況の中間点検を実施し、計画的かつ適切な執行がされているか確認する。	○
(5)	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	個人情報保護の徹底を図り、流出・亡失を未然に防止する。	i) 貸出用 USB メモリや私物 PC の適切な管理・運用と職員の携帯電話の生徒個人情報登録の届け出、パスワードの設定を徹底する。 ii) 定期試験の処理や学期末成績処理における個人情報の持出や保管、特に誤廃棄防止を徹底する。	○
(6)	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故防止の啓発活動と飲酒運転の根絶を目指す。	i) 職員啓発資料等をもとに、管理職から不祥事防止に係る講和または情報提供を行う。 ii) 全職員対象に交通事故防止、および酒酔い、酒気帯び運転防止の全体研修会を実施する。	○
(7)	業務執行体制（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	日常の校務文書の作成、起案の方法ならびに文書保存等について適切に行う。	i) 文書作成や文書保存についての研修資料を作成し、全体研修会を実施する。 ii) 日頃から複数職員による業務執行に係るチェックを徹底し、協同する体制の構築に努める。	○

(8)	調査書・通知表等の作成、成績処理に係る事故防止	単位制支援システムの運用を全職員が理解し、点検体制を整備し、事故防止に努める。	i)成績処理に係る業務において、点検を適切に行い事故防止に努める。 ii) 調査書・通知表等の作成にあたり、点検を適切に行い、発行・配付適性を行う。	○
(9)	進路関係書類の作成および取扱いに係る事故防止	推薦・AO入試等における、校内選考や手続きについて、点検体制を整備し、事故防止に努める。	i) 推薦関係資料の整理、生徒への案内等、点検を適切に行い事故防止に努める。 ii) 推薦会議を適切に行い、申請漏れ等の事故防止に努める。	○
(10)	① 入学者選抜業務の適切な履行	入学者選抜業務に関わる事故を防止する。	i)職員全体へ選考基準等の周知徹底を図る。 ii)入選マニュアルの職員全体への周知を徹底を図り、万全の業務体制で入選業務にあたる。	○

○＝達成できた。 △＝一部達成できた。 ×＝達成できていない。

○ 平成 29 年度不祥事ゼロプログラムの達成状況及び平成 30 年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

【達成状況】

- ・不祥事ゼロプログラムの策定にあたって、グループ業務への位置づけができ、教職員の主体的な取組を進めることができた。
- ・朝の打合せや職員会議の冒頭に事故防止会議を設定し、上記 10 の重点項目に対し、不祥事防止に係る講話等を計画的に行うとともに、副校長・教頭に命じて具体の指示・伝達を行わせた。具体的に発生した事案をもとに、各自が個々に考える時間を与えることで、形骸化せず啓発の効果を上げることができたと考えている。
- ・12月の事故防止研修会では、外部講師（高校教育課 専門員小林 和幸 氏）を招いて、「生徒指導と人権」というテーマで、校内研修会を実施し、事故防止に大きくつながる機会とすることができた。
- ・上記の記載以外にも、日常的に不祥事防止の周知や取組が行われるようになってきていることは、継続的な取組の成果と考える。しかしながら、慣れによる不注意な事故を起こさない事や研修が形骸化しないよう、毎回の新鮮な取組について検討を続ける必要がある。

【次年度に取り組む課題】

- ・不祥事ゼロプログラムの策定にあたって、今後もグループの業務に位置づけ、教職員の主体的な取組をより一層効果的にすすめるよう指導に努めるとともに、引き続き、学校関係者からの意見聴取を行い、研修内容の充実を図る。
- ・外部講師による事故防止研修会については、その年度の課題や教職員の要望と結びつけ、一人ひとりの心に根付く新たな不祥事防止への取組みの視点で、講師の選定を行うこととしたい。